

留年・修業年限超過者特別事由書

令和 年 月 日

九州大学

学部(府)長 殿

年 月 入学・編入学

学部・学府 学科・専攻

学 生 番 号 _____

氏 名 (署名) _____

私は留年・修業年限超過者ですが、次の事由（休学・留学・病気・大学院の論文作成・その他）により、特別な事由に該当する者と認めていただきますようお願いいたします。

【休学及び留学期間】

休 学 ・ 留 学	西暦	年	月	日	～西暦	年	月	日
休 学 ・ 留 学	西暦	年	月	日	～西暦	年	月	日
休 学 ・ 留 学	西暦	年	月	日	～西暦	年	月	日

※休学及び留学による留年・修業年限超過者については、上記に当該期間を記載すること。

【留年・修業年限超過となった事由の詳細】

【指導教員又はクラス指導教員の推薦所見】

卒業（修了）見込：2027年（令和9年）3月（ ） 2027年（令和9年）9月（ ）

指導教員又はクラス指導教員署名 _____

※本事由書作成の前に裏面を必ず読んでください。

※申請者は、事由の詳細を記載のうえ、指導教員（指導教員が決定していない場合は、クラス指導教員）の確認を受けた後、推薦所見・署名（電子署名不可）を記入してもらい、願書と一緒に提出すること。

なお、休学及び留学による留年・修業年限超過者については、推薦所見・署名は必要ありません。

また、上記事由が特別な事由に該当すると認められなかった場合は、申請取下げとなります。

留年・最短修業年限超過者の授業料免除申請について

様式 1 1－2 を作成する際は、以下の事項を確認の上、記入してください。分からない点がある場合は担当係（免除申請のしおりの 2 9 頁をご確認ください）までお問い合わせください。

区 分	免除の対象となる場合	免除の対象とすることが適当でない場合
(1) 休学 ※最短修業年限を超過した時点から休学相当期間内の者のみ	・ 疾病による休学 ・ 経済的理由による休学 ・ 特別な事情による休学	・ 最短修業年限超過後の休学
(2) 留学 ※最短修業年限を超過した時点から留学相当期間内の者のみ	・ 留学のため必修科目等の単位修得ができなかった場合	・ 最短修業年限超過後の留学 ・ 観光旅行の場合 ・ 留学・語学研修期間が半年未満の場合
(3) 病気 ※原則、最短修業年限を超過した時点から 1 年以内の者のみ ※指導教員又はクラス指導教員の推薦所見と署名必要	以下のいずれかの場合で、<u>診断書等</u>で確認ができるもの。 ・ 休学期間に満たない期間の病気（外傷を含む。以下同じ。）又は育児・出産のために単位修得ができなかった場合 ・ 単位修得試験の当日の病気（以前からの急病等によるものを含む。）により単位修得ができなかった場合	・ 法令などに違反した行為が原因の病気（外傷を含む。）の場合
(4) 大学院学生の論文作成 ※最短修業年限を超過した時点から 1 年以内の者のみ ※指導教員又はクラス指導教員の推薦所見と署名必要	・ 膨大な資料収集・解析が必要な研究テーマに取り組んでいることから、論文作成に時間を要することが明白である場合 ・ 高度な最先端技術の研究に取り組んでいることなどから、研究結果に不確かな部分が多く、研究期間を延長することにより、良好な研究結果が望める場合 ・ 海外・国内の他の研究施設等での実験施設・器具の利用がなければ研究成果が得られないなどの理由により、大学においての単位修得が不可能な場合 ・ 実験等のデータが研究テーマの方針どおりのものとならないことから、研究テーマの変更をしたために論文作成が遅延している場合	・ 研究論文の未完成が本人の事情による場合
(5) その他 ※原則、最短修業年限を超過した時点から 1 年以内の者のみ ※指導教員又はクラス指導教員の推薦所見と署名必要	・ 語学研修のため必修科目等の単位修得ができなかった場合 ・ 被生活保護世帯であること、又は学資負担者の死亡や行方不明等による不在が留年・最短修業年限超過の一因であると推察される場合 ・ 申請者本人が身体に障害があるため、学業を継続するうえで負担が大きい場合 ・ 転学部、転学府、転学科又は転専攻のため、カリキュラム変更後の課程を修業年限内に修了することが当初から困難であった場合	・ 国家試験等（医師国家試験、公務員試験等）受験のため ・ 就職待機のため ・ 大学院受験のため ・ 転学、転学部等の受験のための場合 ・ その他自己都合のための場合

【記入例】

【様式11-2】

留年・修業年限超過者特別事由書

九州大学		令和 年 月 日
〇〇 学部(府)長 殿	2023 年 4 月 入学・編入学	〇〇学部・学府 〇〇学科・専攻
所属する学部・学府名を記入してください。	学生番号 3AB23〇〇〇A	氏名(署名) 九大 太郎
私は留年・修業年限超過者ですが、次の事由(休学・留学・病気・大学院の論文作成、その他)により、特別な事由に該当する者と認めていただきますようお願いします。		署名が必要です。
【休学及び留学期間】		該当するものに○を付けてください。
休学・留学	西暦 年 月 日～西暦 年 月 日	
休学・留学	西暦 年 月 日～西暦 年 月 日	
休学・留学	西暦 年 月 日～西暦 年 月 日	
※休学及び留学による留年・修業年限超過者については、上記に当該期間を記載すること。		
【留年・修業年限超過となった事由の詳細】		
○事由が「大学院の論文作成」の場合は、裏面の「(4) 大学院学生の論文作成」を確認の上、以下について具体的に記入してください。 ・研究内容(簡潔で構いません。) ・昨年度に修了できなかった・しなかった理由 ・現在の研究状況及び大学論文の申請要件からみて今年度で修了が見込まれる状況 等		

【指導教員又はクラス指導教員の推薦所見】
・〇〇さんは、優秀な学生であり、学会で賞を受賞するなどの高い評価を受けている。ただ、□□のような高度な最先端技術の研究に取り組んでいるため、研究結果に不確かな部分が多く、研究期間を延長することにより、より良い研究結果が望めるため、在学期間を1年延長することとなった。なお、論文作成に必要な結果はすべて揃っているため、以下のとおり今年度中の修了が見込まれる。
卒業(修了)見込: 2027年3月(○) 2027年9月()
指導教員又はクラス指導教員署名 △△ △△

※本事由書作成の前に裏面を必ず読んでください。
※申請者は、事由の詳細を記載のうえ、指導教員(指導教員が決定していない場合は、クラス指導教員)の確認を受けた後、推薦所見・署名(電子署名不可)を記入してもらい、願書と一緒に提出すること。なお、休学及び留学による留年・修業年限超過者については、推薦所見・署名は必要ありません。
また、上記事由が特別な事由に該当すると認められなかった場合は、申請取下げとなります。

署名が必要です。(電子署名不可)